

#### 第4回議会基本条例制定特別委員会記録（要旨）

日時 平成23年5月25日（水）  
午前10時00分～12時15分  
場所 第1委員会室

出席者 二見委員長 根岸副委員長 小笠原委員 神保委員 桑原委員 原委員  
添田委員 三橋委員 （ほか傍聴議員5名出席・一般傍聴者4名）  
事務局 大野局長 鐘ヶ江庶務課長 和田副主幹

委員長 今回、AグループとBグループから前文と目的規定について案が出てきている。それぞれグループの代表から説明を求めたい。

委員 Aグループでは、柔らかい文書と固い文書のどちらにするかという議論の中で、今後ずっと残るものであることを考慮して、固い言葉づかいにした。二元代表制という言葉を入れて、目的は前文と重複しないよう配慮した。また目的規定の中に福祉向上という言葉を入れた。

委員 Bグループでは、いくつかの市町の前文を参考に3点に集約した。地方分権に伴って課題をまちづくりとしたことや、意思決定の機関、議決を行う最も重要な位置づけとして議会があることなど、心がけたのは固い言葉ではなくできるだけ平易な言葉で分かりやすい文章になるよう配慮した。また、前文を目的規定の中で簡潔にまとめた。

グループの中では、前文を先に作成するべきなのかという話も出てきた。条例案を作成した後で前文を作るべきではという話があった。

委員 今の意見の通り、今この場でAとBに絞らずに条例がまとまった後で両方を見直すようにしてはどうか。

委員 そうではなく、今日は両案の折衷案を作成し、それを素案とすれば良い。趣旨を見ると、地方分権に伴うまちづくりという言葉を入れるとABでそんなに変わらない。

委員 制定作業中に変更や修正がありうるというのは、条例制定にあたって改革の過程を載せていきたいということだ。B案の下から4行目にあるように、今迄の改革を挙げているのだが、これからの改革も討議を重ねながら載せていきたい。

委員長 Bグループが最初に説明した通り、①まちづくり②二元代表制のしくみ③議会運営のしかたと3本の主旨を掲げているが、Aグループはどのような主旨を反映したものなのか。

委員 ひとつの文章をモデルにしたというわけではない。全体の構成をBグループのようにブロックで分けたということもしていない。入れたかったのは二元代表

制、町民の意思を反映させるということで、Bグループの掲げたまちづくりを前文には入れていない。

委員 前文の最初の段落の部分のくだりについては、Bグループの中でも入れるかどうか議論になった。議員の経験年数が長い者にとっては当たり前の内容かもしれないが、新人をはじめ、議員が原点に戻るときにこれを見ることを考えて時代背景を入れるべきだという話になった。

委員 地方自治を充実させるために地方分権一括法ができた。議員はある程度内容を理解しているからいいが、一般の方に見せるには入れた方がいいのでは。

委員 これまでは地方の独自性が発揮できなかったというところを、ここで入れたら良い。

委員 一括法の後で転換が図られてきたとあるが、あえて入れる必要があるのか。また、最終目的がまちづくりとあるが、町民参加あつてのまちづくりというのを入れたい。

委員 A案とB案のどちらかを基本案として採用して修正を加えていけば良い。

委員 前文でこだわったのは、町民がこれを読んでも全く興味を持たないというのでは困る。平易な文章であることが必要だ。

委員 時代背景も分かりやすいように入れた方が良い。

委員長 AとBのどちらかを、多数決で基本案として選択したい。

(A案に対し2名賛成・B案に対し5名賛成)

委員長 では、B案を基本としていく。

まず、最初の4行について皆さんの意見を出してほしい。

委員 地方分権一括法までの経緯について説明を入れた方が良いのかなと思った。

委員 この部分は長くならない方が良い。また、気になるのは3行目にある「個性のある」という表現。これは削除しても良いのでは。

委員 あと、「町づくり」は、「まちづくり」とひらがなで統一する。

委員長 「個性のある」の削除については。

委員 私が考えたのは「特徴のある」という意味であつて、個性という言葉に固執するものではない。

委員 独自性をもつまちづくりということは必要であると思う。

委員 個性はそのまちの生き残りに必要と考えたから入れた。

委員 二宮町は少子高齢化云々とあるが、人口減少化は共通の事象で、ここではその対策をアピールするということか。

委員 二宮町は住宅地として発展してきたので、少子高齢化は死活問題だ。一定の人口増が図られるべきだと思うし、対策としてまちの個性にこだわった。

委員 この問題は全国的なものであつて、町条例の前文であまり説明するのはふさわしくないとと思う。

委員 ここまで書くなら、二宮町の現状を的確に表現した方が良いのでは。  
委員 「大型住宅開発に伴う顕著な高齢化」といった表現か。  
委員 少子高齢化、人口減少を課題に入れた理由がよく分からない。  
委員 あえて住民に問題提起した。  
委員 つながりが分からない。議会改革をすることによって課題の解消につながって  
いくのかが見えない。  
委員 二宮町は観光や企業誘致ということではなく、住民税で成り立っている町だ。人  
口のバランスが新陳代謝によって保たれるのが重要だと考えたので入れた。  
委員 現状を背景として入れるのは良いが、時代背景が合わなくなったらどうなる。  
委員 その場合には条例は改正することになるから問題ない。  
委員 この4行は残しても構わない。住民が分かりやすくなるよう短い文章を付けた  
しても良い。  
委員 少子高齢化は何も二宮だけが特別なのではなく、全国的に見ればもっと深刻な  
自治体がある。  
委員 二宮町は住宅地中心で、住民税も1億減少してきている。この文章のままで良  
いと思う。  
委員長 「個性のある」をどうするのか。  
委員 特徴ある、いきいきした自立したまちづくり、というのはいかが。  
委員 よりインパクトのある言葉として「個性的な」とした。  
委員 A案の最初の2段落の内容をB案で簡潔にまとめている。  
委員 B案の2段落目にある「適切な緊張」は何なのか分かりづらい。A案の中にあ  
る「相互牽制を図り」を入れたらどうか。  
委員 「適切な緊張」というのは、慣れ合いにならないという意味だ。  
委員 緊張関係という言葉を入れてはどうか。  
委員 「相互牽制」はネットでは日常的に使用される言葉だが一般的だとは言えない。  
委員 「適切な」でなく「健全な」とした方が好ましいのではないか。  
委員 健全というのは、様々なイマジネーションを引き起こす。「協働」という言葉  
も同様に曖昧な表現で、適切な緊張という言葉に落ち着いた。  
委員 「協働」は前提だが、この言葉には人それぞれ多様な思いを持つというのがB  
グループの意見だった。根底には「協働」はあるけれど、そこに考え方の違い  
があるので、ここではあえて載せなかった。  
委員 2段落目の5行目、「求められている」という受動的な表現でなく、主体的な表  
現としたい。  
委員 政策提言や政策立案は議員の役割だ。ここでは少し消極的な表現になっている  
ので、例えば向上に努めなければならないとか、きちんと書いた方が良い。  
委員 いま話題になった「多様な民意がある中で、的確な政策立案及び政策提言を積

極的に行う政策形成機能の向上が求められている」という表現はまわりくどい。

「町の課題を常に把握して、多種多様なニーズがある中で、政策立案及び政策提言を積極的に行う、政策形成機能の向上が求められている。」とすれば。

委員 多様な民意がある中で、「常に把握し」というよりは、「的確に把握し」ではないか。

委員 気を付けて読まなければならない文言は避けるべきで、平易な文章を心がけると言いながら、言い回しはそうになっていない。

委員 確かに「求められる」という言葉は受け身な姿勢に取れる。「向上に努めなければならない。」でいいと思う。

委員 まわりくどくならないよう、「政策提言」と「政策立案」のどちらかを採用して、「的確な政策提言を行う必要がある」とすれば良い。

委員 多様な民意がある中で積極的に行うよう努めなければならない、というくだりで「ねばならない」でなく「努めることとする」なのではないか。

委員 「積極的に行うことが求められている」でいいと思う。

委員 これには時代背景があって、その中で私たちはどうあるべきかを書かせていただいた。だから積極的に行うことを求められるということ。

委員 これは時代背景として書いたものか。そうではないと思う。

委員 言い回しにこだわっているのだろうが、政策形成することが求められている。

委員 今までの地方議会とは違うあり方が求められている。だから「積極的な」というのを入れた方が良い。

委員 そこに「向上」という言葉があっていいのではないか。まわりくどく聞こえるかもしれないが、このままでも良いのではないか。

委員長 政策機能の向上というのは削除するという事でまとまっている。

委員 工夫しなければならないという表現の中に機能向上が含まれている。

委員長 求められているという表現でいいのならその方向でいく。

今日の議論をもとにまた文面を作りなおして次回議論したい。

次回は6月24日午前10時開催とする。